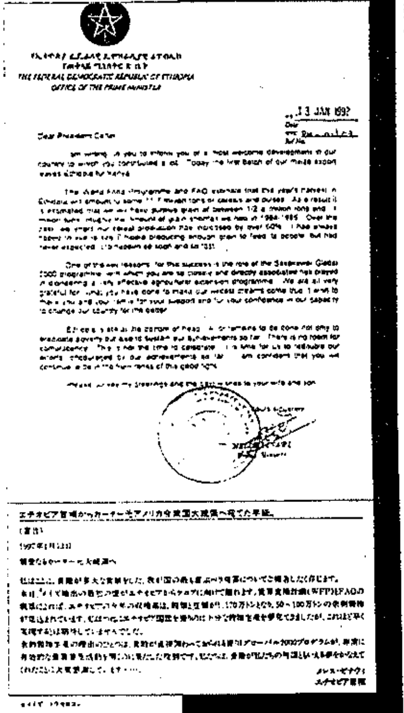
いいと思うものにすぐお金を出します。
手がけた事業は成功しても
失敗しても公表します。
それが日本財団の姿勢です。



THE FEDERAL DEMOCRATIC REPUBLIC OF ETHIOPIA
OFFICE OF THE PRIME MINISTER

13 JAN 1997

Dear President Carter

エチオピア首相からカーター元アメリカ合衆国大統領へ宛てた手紙。

（要旨）

1997年1月13日

親愛なるカーター元大統領へ

私はここに、貴殿が多大な貢献をした、我が国の最も喜ばしい出来事についてご報告したく存じます。[illegible]

メレス・ゼナウィ
エチオピア首相

日本財団の会長に作家の曽野綾子さんが就任して1年余り。この間、新会長が新たな分野でどう活動してきたか、財団のイメージをどう変えつつあるかなどを聞いた。

民間でしかできない、素早い冒険に富んだ仕事を。

——一昨年12月に会長に就任され、細かい日記を付け始めた、という記事を拝見しましたが。

曽野会長　いいえ、日記はたまっていないのですが、日々の活動は非常に良く記憶しています。私には作家として相も変わらずやっている部分と、必ずしも私らしくない生活をしている部分とがあり、9月から「サンデー毎日」でその両方を書くことになりました。私は普段、どこかに旅行すると珍しい町を歩き、貧乏の形だけは観念だけでなくよく知って来たんですが、財団の仕事になると逆の方向の部分に初めてタッチすることもあるんですね。例えば内外の政治家とお会いした記録というのも面白いかも知れないと思っています。

——日本財団は素早く人道的に対応したい、情報公開を含めて分かりやすく公平平等にやって行きたい、資金規模で世界一の財団である以上、日本の平和戦略に寄与して行きたい、とおっしゃっていましたが、どう進展していますか。

曽野　私は素人なので、考えることを素通しでもらえないのではないか、とも思っていました。実際は、[illegible]的な説明があって100％通っているわけではありませんが、非常に素敵に「やりたいことはやりましょう」という姿勢が財団内にあります。財団は東京・虎ノ門にあって、4つ先の角くらいは霞ヶ関です。「霞ヶ関と虎ノ門の姿勢が同じだったら虎ノ門の存在する理由はなく、違わないと困る」とよく笑うんです。「仕事」ということは霞ヶ関がなさることだと思いますが、私どもは「これはいい」と思うものにお金を積極的に出します。第2に前例にこだわることなく、新たな必要があればどんどんそれをやってみる。霞ヶ関と虎ノ門は車の両輪なんですよ。こうした点から、私たちの財団は、民間でしかやれない順速で素早い、そして冒険に富んだ鮮やかな仕事をしてみたいと思います。

効果の上がらない事業でも結果を隠さずに報告したい。

——曽野さんの会長就任や財団の名称変更などで、これまでのイメージを変えよう、これを機に事業も新しく展開したいという意欲があったと思います。

曽野　もともと小説家なんてディスクロージャー（公開）を仕事としてきたんですもの。会議室では、文房具を10万5千円買ったみたいなことまで私に決裁が回って来て、実際に経理部の首を絞めてるようなことなんかないんです。ただ、600億円以上という日本一、世界一の規模の予算を持っていますから、そういうお金に採算してはいけないとはいつも言うんです。例えば、ボランティア活動に年間1400件の申請があり、その中にはただ楽しみでいる場合も[illegible]いというグループも出てくると思います。そうした時にも、こちらの失敗は一切隠さないで「こういうことになった」と申し上げたいのです。

海洋国家・日本の安全のために、地道な事業が必要。

——平和戦略というのは、平均的な日本人にとってとらえ難い問題ですが。

曽野　日本が世界の中で「動いてる」という実感があれば[illegible]。たとえば、現在使っているマラッカ海峡航路に万が一通れない事態が生じた時を想定して財団は北極海航路の開発もやっています。北極海を通ることによって時間は半分になるんです。もう一つは、昨年5月に新聞記者の方に「メガ・フロート」というものを見ていただいたんですが、それは浮いている鉄鋼製の島のお化けみたいなものです。その時は阪神大震災のようなものがまた起きた場合、例えば神戸沖にそういうものを浮かべるとさまざまな目的に使える、という趣旨だったのですが、その後、沖縄の[illegible]が出て一躍脚光を浴びました。マラッカ海峡の安全航行のためのブイや灯台設置は30年間にわたって行っています。危険なマラッカ海峡の安全のために[illegible]しているのはいいことで、平和的な戦略です。そのほかに、米カーター・センターと一緒にやっている「ササカワ・グローバル2000」（SG2000計画）をやっています。かつて飢餓に苦しんでいたエチオピアが[illegible]の結果、穀物輸出を始めました。[illegible]大々的な農業を展開するというのではなく、伝統的な農業である[illegible]って収穫を倍増するというのです。

また、昭和40年代から[illegible]までに、海上流出油防止を[illegible]「新型油濁処理の研究開発」「海上防災訓練施設の建設」[illegible]に約40億円を[illegible]ています。海に油を捨てて逃げてしまうケースもありますから、その被害に遭う小さな[illegible]への救済として[illegible]という事業を[illegible]います。皆さんに「やってるね」と言われることはないのですが、気がついたらウチがやっていた、というそんな役割が私は大好きなんです。

——日本財団は[illegible]アフリカ[illegible]ていることは[illegible]。

曽野　これは大規模のものですが、小さなものでボランティア活動への支援はかなり充実しました。昨年度は約10億円強で、1件100万円以下です。昨年度の申請が3000件、そのうち1000件と言え、今年は5000件くらいになると思われます。申請は[illegible]なくファックスで届き、翌日から[illegible]です。阪神・淡路大震災の時は、地震翌々日から申請が[illegible]り、お見舞いとして出しました。小さな例ではおじいちゃんとおばあちゃんが寝たきりになったので、バケツとタオルを買ってくれという申請もあったんですって。よかったなあ、と思いますよ。

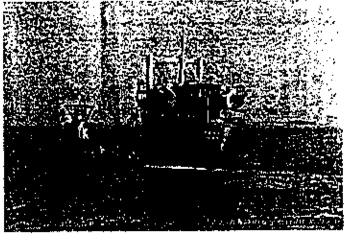
ギャンブル性は誰にもあり、お金は楽しく、適度に使うべき。

——多くの財団は資金運用を前提とするので、財政的に大変な場合が少なくありませんが、日本財団の場合は財源がしっかりしていますね。

曽野　よくまちがえられますが私どもは資金運用をしていないんです。運輸省の監督の下で地方の自治体がモーターボートを開催して、その売上の3.3％を[illegible]して、それを活用しているのです。私が就任した時、「ギャンブル収益なのに賭けの金を認めるのか」と言われましたが、聖書には「不正なマンモン（富の神、転じて富）を利用して友人を作りなさい」というのもあるんですよ。お金というものは場合によっては正しいか正しくないか分からないものもあるけれど、それでもいい、ちゃんと使いなさいという意味です。競艇（公営競技）は、モーターボート競走法に基づいて厳格な運営が求められていますから、モーターボート関係者（運営者、選手など）の努力で暗い部分なんか全くないレジャーになったんでしょうね。でもたくさん賭けて家ではいけませんけど、ギャンブル性というのは誰にもありますから。お酒と同じで、たのしく一杯のむか、[illegible]がなくなるまでグデングデンにのむかということでしょう。楽しく明るく適度に、がいいですよね。

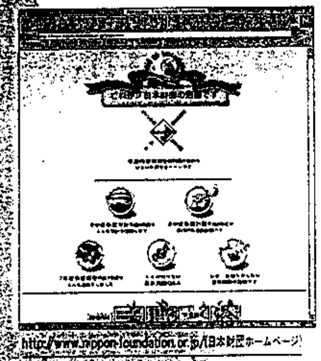
——長年NGO（非政府組織）を続けられ、今度はNGOを支援するという立場で財団にこられた感想はどうですか。

曽野　過去の私のNGO活動の体験で役に立ったと思うのは、人を疑う精神です。（笑）「援助の金というのはどこかに消えるのではないか」という疑いを長年叩き込まれて来ました。お金を出しても、[illegible]をしなければならないと思って[illegible]の出張旅費予算は約33億円ですが、[illegible]私はほんとうに小うるさいイヤな存在なんです。（笑）その上、会長直属の「監査室」を作って、[illegible]の調査を始めています。[illegible]財団から調査に来たのか[illegible]などと言われて、皆さんに苦労をかけています。

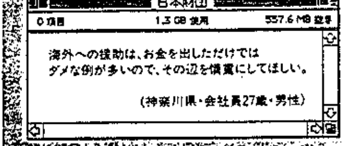


日本財団会長・曽野綾子（その・あやこ）
1931年9月東京生まれ。聖心女子大学英文科卒業。1995年12月、日本財団の会長に就任。"開かれた財団"をめざして情報公開に積極的に取り組む。作家としての主な作品に、『無名碑』（講談社、'69年）『神の汚れた手』（朝日新聞社、'80年）『天上の青』（毎日新聞社、'90年）などがある。

ムページで
財団がよくわかる。



http://www.nippon-foundation.or.jp/(日本財団ホームページ)



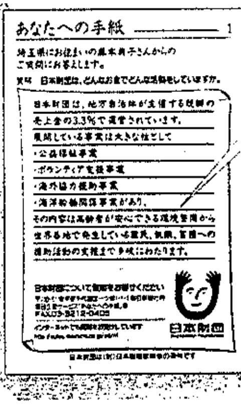
海外への援助は、お金を出しただけでは
ダメな例が多いので、その辺を慎重にしてほしい。

（神奈川県・会社員27歳・男性）

財団へのご意見・ご要望をお寄せください。

企画・制作　毎日新聞社広告局

財団への質問に、
紙面でお答えします。



あなたへの手紙 ———— 1

埼玉県にお住まいの[illegible]さんからの
ご質問にお答えします。

質問　日本財団は、どんなお金でどんな活動をしていますか。

日本財団は、地方自治体が主催する競艇の
売上金の3.3％で運営されています。
展開している事業は大きな柱として
・公益福祉事業
・ボランティア支援事業
・海外協力援助事業
・海洋船舶関係事業があり、
その内容は高齢者が安心できる環境整備から
世界各地で発生している難民、飢餓、貧困への
援助活動の支援まで多岐にわたります。

日本財団について質問をお寄せください
[illegible]
FAX.03-3212-0405
インターネットでも質問を受け付けています
[illegible]

日本財団は(財)日本船舶振興会の通称です

本紙の中で、
「あなたへの手紙」シリーズ
としてお答えしていきます。

財団へのご質問をお寄せください。

〒100-51 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
毎日新聞社内
毎日企画サービス「あなたへの手紙」係
FAX.03-3212-0405
インターネットでも質問を受け付けています。
http://aulos.mainichi.co.jp/ad/nf

日本財団
The Nippon Foundation
(財)日本船舶振興会の通称です